

平成28年度 埼玉県学力・学習状況調査 —中学校の結果分析について—

＜○教科の結果についての概要 ☆指導改善のポイント＞

中学校第1学年

【国語】

○全領域で、埼玉県平均正答率とほぼ同様であった。しかし「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」で適切な敬語を用いることに課題が見られた。

☆敬語の指導については、知識・技能を定着させた上で、様々な場面を想定した指導を工夫する。

【数学】

○県正答率をやや下回った。特に、「平均」「四角柱の体積」「比例のグラフの利用」については、正答率50%未満かつ無解答率10%以上と課題が見られた。

☆「角柱の体積」「比例のグラフの利用」は、1・2学年共通の課題である。練習量を確保する。「4回分の平均と5回目の点数から5回分の平均を求める」等の応用にも取り組む。

中学校第2学年

【国語】

○「話すこと・聞くこと」「書くこと」の領域で県正答率をやや下回った。特に「目的に合わせて話し方を考える」ことに課題が見られた。

☆日頃から話し合いや発表の場を多く設け、その際の留意点などを繰り返し指導したり、評価の観点を明確にするなどして、場に応じた話し方を意識付けることが大切である。

【数学】

○県正答率をやや下回った。特に、「四角柱の体積」「点対称な図形の対応する点」で正答率が県を大きく下回った点、「四角柱の体積」「比例のグラフの利用」で無解答率が25%（4人に1人）以上という点に課題が見られた。

☆「角柱の体積」「比例のグラフの利用」は、1・2学年共通の課題である。練習量を確保する。「点対称な図形」の性質は、線対称な図形の性質と合わせて理解させる。

【英語】

○全領域で、埼玉県平均正答率をやや下回る結果であった。特に、「聞くこと」の領域で「会話文の応答として適切なものを選択することができる」の問題に課題が見られた。

☆「聞くこと」に関しては、日頃の授業において英語をどれだけ聞いているか、という積み重ねが大切である。特に、疑問詞を用いた疑問文においては、答え方を理解し、実際のコミュニケーションの場面での使用を意識しながら練習をしていかなければならない。

中学校第3学年

【国語】

○県正答率をやや下回った。特に「目的や場面に応じて語句や文を効果的に使う」こと、「文を読み返し適切に推敲する」こと、「資料を根拠にしながら、自分の考えを明確に書く」ことに課題が見られた。

☆言語の効果的使用や推敲については、優れた表現を数多く取り上げるなどして言語感覚を磨く指導を工夫する。また、自分の意見を述べる際には必ず根拠を補足して発表する指導を繰り返し行う。

【数学】

○県正答率をやや下回った。「連立方程式の立式」「2点を通る直線の式」「2直線の交点」「三角形の合同の証明」の無解答率が30%を超えた。

☆「2点を通る直線の式」「2直線の交点」は関数分野の基礎基本である。「合同の証明」も、基本的な問題はできるようにさせたい。いずれも練習量を確保する。

【英語】

○全領域で、埼玉県平均正答率とほぼ同様であった。文法問題や会話文の理解において基礎力が定着しつつある。しかし、「まとまった英文の内容が理解できる」問題はやや課題が見られる。動作を表す内容や正しい情報の聞き取りにやや課題がある。

☆まとまった英文を理解するために、語彙を文脈の中で理解したり、段落ごとの大意をつかんだりするなどを意識しながら指導することが大切である。